

令和5年度

板野中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 家庭学習を通して、主体的態度を育成し、知識・技能の習得の強化に繋げる
- 生徒自身が課題を設定し、情報活用能力を駆使して課題を解決する力の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
西山 拓志	校長 山田匠 教頭 木下臣仁 教務主任 秋山純 特別支援コーディネーター 養手明子 研修主任 市川 尚将 1年主任 千種晶子 2年主任 高田恵美子 3年主任 森大樹 国語科主任 阿部春香 数学科主任 西山拓志

校長

山田 匠

【各校の取組状況の把握について】

アンケートの実施、研究授業での報告

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○短答式の問題について正答率が高く、基本的な用語の理解や、計算力は身につけている生徒が多い。 ●複数の情報を整理し、正確に読み取ることについて課題がある。	・基本的な知識・技能の習得に継続して取り組むことができる。 ・情報を読み取る力をより身につけることができている。	・めあてを毎時間明示する。 ・ふりかえりを単元のまとまり等で行う。 ・自主学習ノートに毎日取り組ませる。(繰り返し学習を推奨する) ・週2回のNIE活動に取り組ませる。(鳴潮視写活動、新聞切り抜き感想シート)	・めあて毎時間明示率90.5%→100%にするために、声かけ	・めあてを毎時間明示することで、学習内容が明確になり、生徒にとって分かりやすい授業を展開することができた。 ・繰り返し学習を通して、各教科の基本的な知識・技能の習得を促すことができた。 ・NIE活動を通して、文章を読み、書く力を伸ばすことができた。	・朝学習(20分間)の使い方について、生徒が知識・技能をより身に付けられるような取り組みを工夫する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○聞き手の興味・関心などを考慮して表現を工夫したり、論理の展開などに注意して聞いたりする力がある生徒が多い。 ●自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書いたり、説明したりすることについて課題がある。	・何が課題なのかを生徒自身で設定することができる。 ・基本的な知識や技能を組み合わせ、課題解決に繋げることができる。また、解決方法を説明することができる。	・情報の収集・分析・活用の場面でタブレットを効果的に活用し、生徒の情報活用能力の育成に繋げる。 ・特に総合的な学習の時間において、生徒自身が課題設定が必要な授業を展開する。	・生徒自身が課題を設定できるように、段階的に授業の主体を生徒へと移していく展開について教員が研修をする。	・教師がタブレットを積極的に活用し、思考ツール等を効果的に取り入れることで、情報活用能力の育成と、教え込みだけに注力する授業展開に変化を与えることができた。	・総合的な学習の時間だけではなく、生徒が主体となって、積極的に自分で考え、課題を解決しようとするような場面の設定をする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○予鈴着席ができている、授業態度が落ち着いている、教科内容で分からないところがあれば教師に質問に来る。 ●家庭学習時間が確保できていない生徒が多い。	・授業開始2分前学習に意欲的に取り組むことができる。 ・家庭学習時間を確保し、主体的に学習に取り組むことができる。	・月に1回の「家庭学習強化週間」を実施する。(生徒自身が放課後の生活の振り返りをシートに記入し、どうすれば家庭学習時間を確保できるかを考え、実践する)		・授業開始2分前学習を継続的に実施し、落ち着いて授業に臨ませることができた。 ・生活振り返りシートへの記入を継続して実施し、生徒自身に学習習慣の様子を振り返らせ、よりよい学習習慣の実現に向けての実践意欲を高めることができた。	・生活振り返りシートは記入に時間がかかっていたため、もっとシンプルなものにする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

